

北広島市長期総合計画審議会 第7回 教育・地域部会 議事録

■日 時 平成21年11月27日(金) 18:30~20:10

■会 場 北広島市芸術文化ホール活動室1

■出席委員

杉本修部会長、吉田正男職務代理、宇田川留美子委員、鶴木一任委員、
岡喜美江委員、岡本若子委員、桂裕章委員、菊池重敏委員、富田忠行委員

■欠席委員

村山紀昭委員

■事務局

高橋通夫企画財政部長、川村裕樹総合計画課主任

■傍聴 なし

1. 開 会

【事務局】第7回教育・地域部会を開催する。

2. 部会長挨拶

【部会長】今日で素案の部会審議が終わる。1月の全体会議で、素案ではなく原案の提起があり、2月と3月に部会が増える可能性はあるが、実質的には4月ですべてが終わる。一つの山場となるが、前回に引き続き、審議のまとめと重点プロジェクトについて検討する。

3. 報 告

【事務局】市民説明会の実施結果について、配付資料に基づいて説明する。11月11日の住民センターから始まり、19日の夢プラザまで全部で60名の参加があったが、このうち東部地区について、関係するところでは市役所庁舎の関係、大曲地区については市職員の資質に関する指摘があった。詳細に関しては資料に記載している。

4. 議 事

【部会長】議事に入るが、基本計画部分の審議を先に行って目処を付けてから、重点プロジェクトに移りたいがどうか。

【事務局】前回指摘を受けた審議の修正内容について、各担当に確認し資料としてまとめてきた。まず、2章1節の生きる力に関するPTAの扱いについては、教育委員会としては「家庭」の中に位置づけているため、表記に関して変更はしないとの回答があった。次に、「基礎・基本」など言葉の使い方だが、「・」を入れるのが一般的であることか

ら、これについては修正する。3番目の「地域ぐるみの安全・安心な環境づくり等を促進する」については、このような体制を確立する必要があることから、指摘の通り修正する。幼児教育に関しての積極的な推進については、例えば何々を増額するなど具体的なことは記載できないが重要であることから、今後も様々な懇談会等で意見を聞き、推進計画の中で、どのような施策がいいのか検討する。2節で、学校の先生方の悩み等を相談するシステムについては、今は各学校で校長、教頭が対応しており、カウンセラーの配置などは行っていないのが現状で、今後の課題といえる。また、歴史の継承と創造について、「民族」や「地誌」など一般的でない言葉を削除した形でまとめていきたい。芸術・文化の振興、メセナの実績については、ここ最近だと札幌の演奏会で、道新等の主催で資金提供を受けていることや、昨年10周年記念では伊藤組からも受けた。この資料に記載しているものが全てであるが、メセナ自体が企業の業績等により厳しい状況に陥っているのが現実である。8節のスポーツ活動の推進だが、教育委員会としては、多様化する市民ニーズに対応したスポーツ施設の整備の中で、市民の健康増進を検討することから、特にプールの整備とは記載しないが、この状態で酌み取って欲しい。次に、大学との連携に関して、2段落目は削除、4段落目の中で、道都大学に限らず人的、知的資源を有効に活用したいことから、地域活動の促進の中で、学生による地域イベントの企画、運営云々を追加した。それから、6章の市民参加・協働の推進の中で地域主権に関する指摘を受けたが、時代の潮流の中で最初に地域主権と記載していることから、現状と課題の中で地域主権にかかわる部分の言葉を追加し、残りを削除するなど整理した。また、指定管理者制度の検証について、平成20年度からモニタリング評価を実施しており、第三者的な、外部的な部分が入っていないが、ホームページで公表はしている。6節の政策評価の事業仕分け的なものといった指摘もあったが、これについても評価手法の拡充を基本的方向の中で記載しているため、特に表記は変更していない。また、大学との連携の中で追加した「本市に関係する」という言葉は特に必要ないため削除し、まちづくりを進める上で、さまざまなものをつながるような形で修正する。

【部会長】 これら修正内容について確認する。1節だが、P T Aが解釈に含まれているため、変更しないとのことだが、どうか。

【委員】 説明の意味がわからない。P T Aは、学校との連合体であって、家庭の中にといった表現がよくわからない。

【事務局】 素案の学校と家庭、関係機関、地域は綿密に連携したかといった言葉の中で、P T Aはどこに位置付けられるのかといった質問の内容だったと理解しているが。

【委員】 そのようなことではない。

【事務局】 「PTA」が見えてこないとのことであったが、ここでは敢えてPTAとは表記をしないといった程度のものである。

【委員】 了解した。

【部会長】 この部分については、変更しない。2番目だが、これは、「基礎・基本」に変更とということによろしいか。3番目は、文章の修正で「危機管理体制を」という形にしたが、これもよろしいか。以上、別途文言についての指摘はあるかと思うが、前回の意見に関しては、これで確定することにしたい。2節については、質問と意見の両方あったが、現状では対応できていないとした。5節の「民族」については、指摘の通り修正した。7節は質問で、メセナの実績を紹介し、次ページでは企業の厳しい現状も記載している。8節は、具体的には通年温水プールといった提案があったが、多様化する市民ニーズの中に含んで解釈し、修正は行わない。9番目は、かなり過激な意見もあったが、きょうの資料を見ると、道都大学に関する記載が全部消されている。6章については、1節で地域主権について触れ、地域主権型社会、地域主権という言葉に統一した。それから、指定管理者制度について質問があり、検証しているとの回答であった。モニタリング評価を行い、結果は公表されている。それから、6節だが、評価手法の拡充の中に、今行われている事業仕分け的なものを含んでいると解釈している。このように解釈が既に文章に含まれているところと、実際に修正したところがあり、例えば温水プールは「多様化する市民ニーズ」に含まれると一応合意はしておくが、この文章が10年間活用される場合に、審議会では具体的にこんな意見もあったと取り扱ってもらえるのか。

【事務局】 この会議結果も記録されており、当然消えることはない。特に強く記録するならば、審議会全体の合意が必要になるが、審議会の答申の付帯意見としてつける方法もある。

【部会長】 以前他部会と意見交換したが、この審議会を10年に1回つくって解散ではなく、実現に向けサポートしたり応援する小さな委員会を設けて次の策定まで見ていくべきだといった意見もある。このようなアフターケアというか、もっと具体的な事業に即して、本当の狙いなどを説明する仕組みも必要だと感じてはいる。以上、前回議論したことについての修正は、一応、部会としては合意した。それに付加して、修正提案があるので、項目別に説明して欲しい。

【委員】 素案の2章1節、「危機管理体制の確立と」を削除しても、十分文章として通じるのではないか。同じく、基本的方向について、「幼児の調和のとれた心身の発達」を「幼児の調和のとれた心身の発達」、施策のうち「幼稚園活動への」を「幼稚園等活動への」としてはどうか。それから、2節の現状と課題について、「地域が協働して学校

改善への取り組みを進めていくような」の「ような」を削除したほうが文章としてわかりやすい。同じく、施策について、既に修正しているが、「郷土史」と「市史」は、少しニュアンスが違う。むしろ、「民族」だけを削除すべきである。要するに、郷土愛の育成といった意味合いが大きいことから、「郷土史」と「市史」は重要である。それから、6節の基本的方向について、「子どもから高齢者まで」といった表記があるが、統一して、「高齢者」を「お年寄り」としたほうが読みやすいのではないか。また、大学との連携、現状と課題に関して、3行目から7行目を削除し、「本市はこれまで産学官連携、特に大学の有する人材や英知をまちづくりに生かすため連携をとってきました。今後は、さらに多くの特徴ある大学等との連携を深めるとともに、地域の一層の活性化に資する多様な活動への参画やボランティア、NPOなどの市民活動団体との連携を促進する必要があります。特に、本市に在籍・在住の大学生、専門学校生には、学生の新鮮な感覚を地域のイベント、企画運営などに参画してもらい、まちづくりの一端を担ってもらする必要があります」といった文章に差し替えてはどうか。それから23ページの施策について、「道都大学との」を「大学等との」としてはどうか。6章についてはほとんどないが、47ページ1節の現状と課題で、「地方分権が進み」とあるが、これは「地方分権の考えが進み」ではないか。このため、次行の「自立を市民が責任を持って考えることが」を「自立に市民が責任を持つことが」に変更してはどうか。また、47ページの基本的方向について、「市民が主体となった公益活動団体（NPO公益法人、共益団体など）」とあるが、要するに市民、公益活動をどうとらえるかであることから、公益法人や共益的団体を同じくくりの中に入れても差し支えないのではないか。なお、これは修正ではないが、3節の男女協働参画の推進に関して、記載内容はわかるが、長期計画の中に必要不可欠なテーマなのか。女性は社会の弱者であることを前提した施策だが、もう少し工夫する必要があるのではないか。

【部会長】 全てはフォローできていないが、素案をベースに修正提案されている。

【事務局】 施策に関しては、その前の9月に渡した案をベースにして欲しいが、現状、課題、基本的方向は現在の素案がベースで構わない。

【部会長】 どのように検討するか。コピーを取って、一つずつ確認するか。

【事務局】 文字等の修正程度であれば、事務局が一度預かって確認し、次回全体会議前に改めて各委員に配布することも可能である。

【部会長】 表現上の修正が多い。要するに添削であって、ある考えについて全面的に反対とか、削って対案を出すといった類のものではないことから、事務局と私の間でどうするか検討し、関係委員に確認し、再度全委員に報告することでどうか。

【事務局】 これまで基本的方向などは今の素案、施策は以前配布したもので確認してきたが、文言の整理がかなり進んだことから、ページ数はふえるが、一つにまとめたもの、ほぼ原案に近いものを、全体会議のある12月16日より前に送付したいと考えている。今後も言葉の言い回しなど確認が必要だが、表現上の問題に関しては、直接事務局が対応していきたい。

【部会長】 その方向で進めたい。そうすると、前回の議論については一定の結論を見出した。文章表現は事務局と一緒に検討し、全体会議前に修正版を送りたい。

【事務局】 可能なら、もっと早く送付したい。12月16日は部会はなく、全体会議のみである。

【部会長】 全体会議に報告するのは、きょう検討したレベルのものになるのか。

【事務局】 報告に関しては他部会との調整も必要だが、部会長に一任したい。

【部会長】 前回は、部会毎にレジュメを配布したが。

【事務局】 配布した。今回もそう考えている。

【部会長】 前回以降の意見、修正をまとめて欲しい。では、次第の2番目、部会審議のまとめと、2章と6章にかかわる部分については、一応終わりとしたい。前回に引き続き、重点プロジェクトの検討を、残りの時間を使って行いたい。

【事務局】 前回、委員から、プロジェクトの提案があったのと、最後に部会長からまちなぎわいの創出として、核になるようなイベントといった話があった。今回の審議では、他部会との調整もあったが、委員の案のようにまとめることが難しいため、例えばにぎわいの創出にはイベントが必要だ、といったパーツやキーワードを抽出して、最終的には事務局預かりとし、揉んでいくような進め方にしたいがどうか。いずれにせよ、委員の案のようなまとまったものがあれば、非常に参考になる。

【部会長】 では、そのように事務局でまとめて欲しい。しっかりとしたものでなくても、アイデアというか、スローガンと主たる内容が提案されれば、事務局が作業する。残った時間、自由に提案して欲しい。前回から気になっていることだが、「ゴロッケー」という北広島発祥のスポーツがあるものの、全国的には全く広がっていない。例えばゲートボールやパークゴルフなどとの共通点が多いが、ゲートボールは廃れつつあり、パークゴルフ場は圧倒的にふえている。

【委員】協会の人数を見ても、圧倒的にパークゴルフ協会が多い。場所も安上がりで、どこでもできるといった利点から、都市周辺にも多いし、管内、道内にも多数ある。

【部会長】例えば、全道各市町村対抗ゲートボール大会などがあってもいいと思うが、そうなる前に下火になった一方、上川の和寒町では、玉入れの高さ規格などを設けて「競技化」し、全道大会や地区大会を開催している。前回にぎわいの話をしたが、特にイベント、長沼など周辺市町村がチームをつくって、北広島に来て大会を開催し、それが全国的に承認されるようなスポーツでもいいし、芸術でも構わないが、何かそういったものはないのか。

【委員】パークゴルフはゴルフと同じ個人プレーだが、ゲートボールは、どちらかというと団体競技で、勝敗の責任など個人的なやりとりがあるため、敬遠する人も多いことから、それが普及しない一因ではないかと思う。

【部会長】ゴロッケーは道具も安い。パークゴルフは、クラブが1万円程だが、ゴロッケーは1,000円～2,000円で済む。

【委員】ゴロッケーをやってはいないが、1,000円や2,000円では済まない。なお、ゴロッケー協会は会員が高齢のために解散となった。

【部会長】北広島の協会はなくなったのか。大会はやっているのか。

【委員】重点プロジェクトの検討とのことだが、ゴロッケーとはどういった関わりがあるのか。

【部会長】例えば元気なイベントやスポーツなどがあると、北広島で基本的なルールなどを定めることができるから、これを周辺に広げ、大会なども開催できる。

【委員】北広島発ということか。

【部会長】それで、ゴロッケーはなぜそうなれなかったのかと思い発言した。

【委員】まちづくりが基本になるが、私が20歳代のころに住んでいた東京の国立市は、当時は畑ばかりだったものの、桜を苗木から植えて、今や桜の名所となった。縦横に全部合わせて2キロ程度で、現在の人口は7万人程度なもの、ずいぶんと人が集まるまちになった。国立市は、もともとの成り立ちが学園都市で、一橋大や音大などがあり、一方隣接する立川市には、遊興、要するに飲み屋とかパチンコ屋がたくさんあるが、国立市はそれらを排除して、学園都市として発展してきた。このように、何かそういった将

来ビジョンというのがないと、発展にはつながらない。この北広島市には約120平方キロというスペースがあり、国立市は8平方キロ程しかないが、立地は非常に似ている。甲州街道があって、五日市区街道や中央高速があるが、広さは北広島の方が大きい。市長も今年の所信表明で人口増加を掲げているが、何十倍もの土地があるのだから、もっと有効利用すれば、充分可能ではないか。財政的にも重要である。今後様々な施策が実施されると思うが、札幌市に隣接している北広島と、東京23区に近い国立市ということで、人口規模こそ違いますが参考にはなると思う。

【部会長】 国立は、まちの中心がJR駅になるのか。

【委員】 JR駅から、立川と国分寺に向けて線路沿いに商店街が徐々にふえていった。最終的には、駅を背にした南側に大学通りができ、そこが桜並木となって人が集まるようになった。また、商店街も専門店が中心で、大型店はない。大型店は、電車で5分程の立川や国分寺に出店した。

【部会長】 国分寺は、道路そのものはかなり古い区画で、新しい住宅はあるが、古い寺が点在して、江戸時代からの歴史がある。

【委員】 国立は、戦後西武不動産が農村地帯を宅地造成し、比較的裕福で知的レベルの高い人たちが住みついた。そのため、今でも学園都市、文化都市といった発展の仕方をしている。

【部会長】 何が売りなのか。

【委員】 要するに遊興的なものが何もない、学生の集まる純然たる学園都市だ。マンションの高さ制限など厳しく、大学通りに歩道橋をつくっても、景観上反対運動が起こるなど、市民活動が活発なまちだ。

【部会長】 了解した。ほかに、どうぞ自由に発言してください。

【委員】 今まで北広島は、近くにある札幌の相当大的な潜在的なパワーで、財政的にも恵まれてきた。ただ、ゴロッケーは発想こそよかったのかもしれないが、パークゴルフやゲートボールなどに押されて日の目を見なかったような気がする。今は、健康スポーツやヘルシーな生活志向がかなり意識されるようになったが、北広島は札幌ほど市街化されておらず、自然も非常に豊富にあるにもかかわらず、まだまだ活用されていない面がある。例えば、歩くスキーやノルディックウォーキングなど、いろいろな企画はあるが、ネットワーク化というか、有機的につながることが少ない。江別市との間に野幌原始林があり、ウォーキングできるところもあるが、そこまで行かないといけないという

か、市街の中心部や住宅街とのアクセスが途切れている。恵庭は、フットパスがかなり縦横に張り巡らされており、どこにどんなコースがあるのか、時間や距離などいろいろなことがマップになっている。北広島にも、中の沢のホテルに素敵な歩くスキーコースがあるが、元々はゴルフ場のため行きにくいのと、確か200円程の有料となっている。牧場を通過して勝手に行ったこともあるが。

【部会長】 山手町のところに出るが、牧場の中で私道だ。

【委 員】 私道のため本来は使えないが、最近、ウォーキングで言われているフットパスというのがある。イギリスなどで盛んだが、個人の牧場や私道を通ることから、エチケットやマナーが重視され、迷惑をかけないように行われている。こうした様々な素材を結ぶネットワークは重要だし、もちろん自転車もあるが、高齢者のことを考えると、歩くということはいいなと思う。こういったことが、いろいろな意味でにぎわいをもたらす。また、特に札幌は車のための信号が多くて、小刻みにとまらなければいけないため、歩くのが苦痛になるが、この辺に来ればそういうこともない。先ほどの桜並木の話も含め、こういったものが有機的につながれば、ほかの地域からも人を呼び込むことになる。今後人口も余り増えないだろうから、活用されていない自然を少し掘り起こしていく必要があると思う。

【部会長】 公園マップのような地図はあるか。

【事務局】 公園だけに特化したマップはない。「北広島マップ」はある。

【部会長】 梅を植えた公園があったと思うが。

【事務局】 以前は香梅園といったが、今は名前が変わった。

【部会長】 あまり宣伝されていない。

【委 員】 よく子どもを連れていく。海外から来た子どもも連れていった。

【委 員】 テニスコートに出る森の中はすごくよい。

【委 員】 人を呼び込むということで思いついたが、サイクリングロードで北広島産の野菜を売るなどできないか。どうしてかということ、息子が札幌の高校に通っているが、ここでとれたトマトを持っていったら、みんなが「このトマト、本当に美味しい」といって食べたことがある。こういったことを宣伝して札幌から来てもらう、イベント時に北広島でできたもの宣伝するのはどうか。それから、ひろっこうどんやひろっこラーメン

などあるが、いろいろ調べて宣伝する場をつくるのもどうか。

【委員】ひろっこうどんについては、今開催されている「元気フェスティバル in 北広島」に出展という形で、体育協会が販売している。少し高めではあるが、販路が広がって販売なども行われているようになるなど、売れるものの一つになっている。

【委員】エコミュージアムも今計画されている。例えば、そこで子どもにひろっこうどんの体験をさせるなどどうか。中学校の修学旅行では、秋田でいろいろな体験をするが、このような体験型は貴重で毎年行くようになる。北広島の良さを前面に出し、「あそこに行ったらこういう体験ができる」と呼び込んでいくのはどうか。

【委員】私が作成した資料は、各部会や全体会議の審議経過などから重点化すべき施策について検討する、と記載された事務局資料に沿ってまとめた。この中で一番言いたいのは、だれもかれも生き生き生きる、生きられるまちにしたいということである。本当にいろいろなことを含んでおり、子どもを一生懸命育てることも、大人が楽しむことも全て含まれる。また、文化団体の代表としても意見を述べないといけないが、美術協会としては、展示会にしても、以前は住民センターにパネルを運び大変な思いをしたが、花ホールのギャラリーができてからは本当に便利になった。会員も高齢化してきているが、とても楽に発表できるほか、毎回市民の方々が1,000名位来場されるなど、ひたすら市に感謝で、これ以上何か要求するつもりはない。ただ、図書館に来た方やイベント帰りの方などの来場はあるが、継続して教育委員会にお願いしてきたのは、総合計画の中でも子どもたちが花ホールを見学することが盛り込まれているが、是非私たちが展覧会をやっているときに美術展を見てほしいことである。子どもたちが、生で大きな作品を見る機会は少ないことから、過去からお願いしてきたが、実現に全く至っていない。たまたま、花ホールを見学に来ていた、確か西部小の子どもたちだと思うが、呼び込みして見てってくれたのだが、これを市にお願いできないか。また、生き生き生きるために何をしたらいいかだが、去年か一昨年位に、この花ホールで文化団体の会議があった。全ての文化団体が対象ではなく、美術協会や音楽協会、陶芸協会などが呼ばれ、なぜか文芸協会は呼ばれていないなど全部に行き渡った会議ではなかったが、たった一度で終わってしまった。こうした会議を何度も開いて、こんなことしたらいい、あんなことをしたらいいと意見が出し合えたらより交流が図られ、6章の実現に役立つ。とにかく交流の場をたくさん設ける必要がある。

【委員】北広島の地域性、特殊性が出ているのだが、地区毎にいろいろなイベントが行われており、大曲地区もそうだが、地域振興会が中心であったり、文化協会が講演したりしている。例えば、「300歳ソフトボール大会」は高齢者や婦人が入るルールだが、市はなくなったが、大曲地区では、町内会チームが約10チーム程集まって、毎年、勝った、負けたと非常に和やかに大会が続いている。文化祭にしても、文化協会と地域振興

会と一緒に夢プラザを使って展示し、舞台部門では幼稚園から高齢者までが出演している。冬は雪合戦などいろいろなイベントを行っているが、夏まつりも含め、約40年と北広島でもちょっと異例なほど続いていると思う。このように、地域では比較的活発に行われているが、全市的となると、なかなか足が遠のいてしまうというのが実情ではないか。市でやっているのは、夏まつりと冬の雪まつりを札幌の真似で、しなければ格好悪いから、商店街と市の観光協会が主体になってやっている程度ではないか。農協は農協で、JAの産業まつり、農業まつりを別な日にやる。残された工業とか、大きな商店街というのは、なかなかそういうところに参加する機会がなく、大曲地区の夏まつりは、新しくできた大型商業施設なども協力していることから、そういったイベントには、いろいろな業種が協力してもらえるはずだ。1年に何度もするわけではないから、少なくとも工業や農業、商業の人などが入って、一大イベントとして集まる機会ができるのではないか。確かに場所など市が主体になると、大曲や輪厚、西の里の人たちの足が遠のく可能性はあるが、こうした地区への執着に対して、ある意味改革を行っていかなくてはならない。もっと市独自の、住民やいろいろな業種が入った中で、お祭りを企画し、若者も巻き込んで実際にやってみることが大切ではないか。例えば、何十年も続いている夏まつりだが、以前は「広島音頭」で駅前からパレードしたこともあった。

【委員】夏にしても冬にしても、だんだんしりつぽみになってきたし、参加者もだんだん少なくなってきた。以前は婦人会などあったが、今は商工婦人部くらいなので、もう一度そこから見直す必要があるのではないか。

【委員】大曲の振興委員会の広報を見ると、楽しそうなイベントがいっぱいある。化石堀りなど何回か参加したが、あの活動の仕方はすばらしいと思う。振興委員会のメンバーに教えてもらうのはどうか。

【事務局】生涯学習振興会は、西部地区生涯学習振興会と西の里、大曲など、活発に様々な自主事業が行われている。団地と東部も基本的には動いているが、具体的活用はこれからで、組織をつくることを含め現在検討している。前回提出の重点プロジェクトに関する資料についての確認だが、最後の交通充実の話に関して、これはやはり生き生き生きるために、市内のバスなどを意識していると考えていいのか。それから、生き生き生きるプロジェクトは、他の部会も含めいいネーミングだと捉えているが、この中に青少年の健全育成的な部分を盛り込んでも構わないか。例えば、事務局が例示した子育て、人づくりプロジェクトと、生き生き生きるプロジェクトは、同じような性格なのか、それとも違うのか、その辺りについて考えを聞かせて欲しい。

【委員】同じだ。子どもを育てる楽しさに関して、育てる人は楽しみながら育てる。それから、お年寄りはお年寄りで、豊かな人生をもっともっと豊かに生きるために楽しむ。子どもは子どもで、これからの歩んでいく人生を、周りからも愛され、自分も人を

愛して、本当に豊かに過ごしていく。子どもから大人まで、生き生き生きるために頑張ろうという意味でまとめた。

【事務局】 市民説明会でも、市民は生き生きしていない、特に子どもは生き生きしていないという指摘があった。捉え方とは思うが、そういった指摘があったのと、「生き生き」といった言葉遣いが、他の計画でもあまり使われていないフレーズのため、耳に残って何とかうまく使えないかという意味も込めて確認した。

【委員】 男女協働参画の冊子「えみんぐ」でも、特集で「生き生き生きる」を使った。

【委員】 「生き生き」はいいと思う。例えば、例1のタイトルも「生き生き市民づくりプロジェクト」としてはどうか。内容が似ているのと、生き生き市民とすれば全員が対象になるので、どうか。

【委員】 賛成だ。

【委員】 すべての人に通じる言葉で、響きもいいことから、子育てにこだわらずに広い意味でも使えるのではないか。また、重点プロジェクトの例3にある「住みよさ地域づくりプロジェクト」について、住みよい、安心感のあるまちづくりのような方向付けにすれば、いろいろな要素が含まれるのではないか。それから、目的に「安心して快適に暮らせる地域づくりを目指します」と記載されているが、ここで「地域」を持ち出すと、先程からの指摘の通り、地域それぞれは生き生きしているが、まち全体としてまとまりがない感じを受けてしまうので、地域という言葉は避けたほうがいいのではないか。全体としての長期総合計画であるなら、市全体、まち全体という大きなくくりの中でとらえたほうが、地域間交流なども含めて適している。専門部会からのキーワードでも、地域での共助の仕組みづくりはあるが、地域間の交流は出てこない。交流を少し入れると、もう少しいろいろなつながりが出てくるのではないか。

【部会長】 事務局例示案は非常によくまとまっているが、見えてこない。例えば3の目的では、緑豊かな住環境を充実しながら、安心して快適に暮らせる地域づくりを目指します、とあるが、誰が何をどのようにするのか、具体的に目に浮かんでこない。先ほどの牧場の中を歩くとか、梅の公園があるとか、そういったところに行って生き生きと楽しくやっている、そういった具体的なものをつなげていって、10個、20個集まれば見えると思うが、今はまだ具体的キーワードと結びついていない。

【事務局】 特に、例3はハードのことを意識している。その中に、無理やり社会教育やスポーツ活動を入れて浮いてしまっていることから、逆に生き生き生きるプロジェクトに含めた方がすっきりする。居住環境、交通、都市景観といったハード系をイメージした

ものの中に、ソフトをまぜ込んでいるため、もう少し整理すべきだと考えている。ただ、例1は子育て、例2はどちらかというともちのにぎわいとなることから、まとめやすい。

【部会長】 かなり焦点がはっきりしている。

【事務局】 3が大きすぎるので、安心感のあるまちでまとめるなら、どこかに絞ったり、整理が必要な箇所だ。

【部会長】 サイクリングも、朝から晩まで毎日ではない。冬のスキーも毎日ではない。一月に一度か二度だ。市内にイチゴ農園が10ぐらいあるが、収穫シーズンは一ヶ月。梅も7月頃の2週間か3週間で、桜は植えても春の2週間ぐらい。雪まつりも一週間ぐらいだが、こういったことを、標準的な北広島市民の1年間として考えたらどうか。お正月は家にいるが、終わったらおもちを食べ過ぎたので運動したい。例えば、スキーに乗って運動し、雪が解けるころには別なものと、1年間の暮らしの中にあるいろいろな行事や行動をつなげていくことはできないか。自分自身のこととして考えればわかるのではないか。例示を見ると、市が、自分とは関係ない、住んでいる人と関係ない、すごいプロジェクトを3つやると読み取れるが、当面私自身は参加したいとは思えないものばかりだ。例えば、普通に住んでいる人、勤めている人は、平日の夜は時間的に余裕がないため、土日だけ北広島を地盤に何かできるか、考えてみる。そうすると、季節に応じて、みんなが参加して、その中で友達ができるようなことを地域でやろうとなるが、3つの例示との接点が見いだせない。同じように、日曜日に客が来たとき、いいものを食べさせたい、チェーン店ではない落ちついた雰囲気のお店と思うが、この例示の中には、そういった思いが入っていく余地がない。

【委員】 最近、確か農協が地産地消のレストランをオープンさせた。北海道でとれたものでケーキやパスタをつくっており、従業員には軽度の障がいの方もいるが、市で応援しているのか。

【事務局】 共栄にある社会福祉法人の富ヶ岡学園で、通所のほか、福祉ホームのように住んでいる方もいるが、そこでレストランを開いている。

【委員】 このような施設の宣伝は、積極的に行うべきではないか。北広島のスパゲティ、つくったのはあのレストランですよ。経費がかかるので大変だとは思いますが、あのような発想は、若い人が集まるような気がする。若い人が来て、若い人がいいなと思わないといけない。

【委員】 専業主婦は自分で時間がつくれるため、歌や絵などいろいろなことをしてきた

が、この前退職した夫は、家族写真の整理が終わると、今はただぼーっとしている。北広島は、本当に家と会社を行き来するだけだ。以前、まちづくり委員会のメンバーでもあったTVプロデューサーが、「朝は会社へ行きたくないからうつむいて駅に向かって、帰ってきたらもう外は真っ暗で北広島のことは何も知らない」と言っていた。本当に立場によって全く違うので、立場を超えてみんなが当てはまるものを考えていかなければいけない。

【事務局】北広島は、まちのPRがほとんどできていない状態で、そのため6章にもシティーセールス、シティープロモーションと記載しているが、今年度国の補正予算を受けて、どうやってまちを売り出していくべきか検討している。函館のように東京のど真ん中のテレビモニターで、まちPRのビデオを流すだとか、そこまでいなくても、先ほどのサイクリングロードやひろっこうどんなど何でも構わないが、うまくPRできないかと進めている。先ほど人口の話もあったが、北広島市内の市街化区域内に家が建てられる場所の利用率が7割で、残り約3割が空き地となっている。現地を歩いて、あいている土地、あいていない土地を調べていったが、この3割が全部埋まると、人口が今の6万人から約7万人にふえる計算となる。今のままでも1万程度ふえる可能性はあるのだが、実際には人口が減っている。ということは、PR不足も一つの要因として考えられるし、重点プロジェクトの中にうまく組み込めないかを感じている。そのPR方法として、何か提案があれば参考にしたい。

【委員】由仁町の観光パンフレットは、手づくりの感じが若い人に受けている。また、足寄町も化石が出るが、その化石を中心とした親子向けのパンフレットがあり、化石のいろいろな体験なども可能なため、地元住民だけではなく、逆に札幌などにPRするのも効果があるのではないか。

【部会長】自然豊かなや緑豊かな言葉はいろいろあるが、個人的には音や目に見える形などどうかと思う。具体的に言えば、春なら家のそばだとウグイスが鳴き、カッコウは突然朝、声が聞こえるようになる。夏になるとまた違う鳥がいて、秋に来る鳥はまた違うなど、四季それぞれに違う鳥の声が聞こえ、そのとき咲く花も違い、冬の花のないときは、雪景色で遊歩道がきれいだ。このように、少なくとも北広島のホームページを見たときに、北広島の四季の絵や音に加え、1分か2分の動画が楽しめるといい。食べるものに関しては、江別では小麦を売り出しており、江別の農家がつくって江別製粉が加工し、地域のレストランが小麦のそばでも、ラーメンでもない、中間的なうどんっぽいものをつくっており、おいしいもの、おいしくないものとあるが、江別の市民会館の食堂にはそうした様々な種類があり、まちとして売り出している。ひろっこうどんは、そのレベルの競争はしていない。知っている人は知っているが、知らない人は全く知らないレベルだが、江別は、まちが真剣になって売り出している。北広島の宣伝は、本当に下手だ。売り出すものがあれば来る人もふえるが、北広島に住んでいない人に北広島を説

明するのが非常に難しい。どんなまちだというときに、一言で言えない。まちには本当にいろいろないい面があるが、まずは少し宣伝があって、その中でみんなが元気に暮らしていることを情報発信し、それが魅力になって人が来るようになれば、全て循環するのではないか。また、直接関係はないが、数ヶ月前の道新に「空知の農家レストラン」といった連載があったが、北広島は入っていなかった。長沼から向こうであれば、由仁などまちごとに何軒も掲載されていた。ショックというか、がっかりしたというか、北広島はあの連載に対抗するものを全く持っていない。ただ、竹山温泉付近の野村農園にサクランボ狩りに行ったことがあるが、あれは農家レストランの候補にならないのか。立地はいい。

【委員】 そういったものをパンフレットに紹介するといい。その他では、ハムなどの「エーデルワイス」も、本州から見ると魅力的だし、無添加を強調しているので、そのようなところを紹介するようなマップがあると喜ばれる。特に輪厚スマートICができたので、うまく活用できないか。それから、竹山高原温泉に向かう途中に「黒い森の美術館」があるが、誰も知らない。本当に小さく、アットホーム的な美術館だが、こういったものを一目で見られるような、探検できるようなものが欲しい。

【委員】 この総合計画は平成23年度から10年間であるが、その前の平成22年度までに北広島団地の活性化計画を策定することだが、その内容や進行状況はどうなっているのか。

【事務局】 北広島団地活性化計画は現在検討中で、12月7日に活性化検討委員会から答申が出る予定である。この審議会の委員の中にも検討委員がいるが、内容に関しては、団地内で家を維持できなくなった場合や交通の問題などを含め、どうやってまちを活性化させていくのか、団地の総合計画とは言い過ぎかもしれないが、そのような計画を今まとめ上げている。この計画については、答申後各委員に送付しようと考えているが、各住区毎にお茶の間懇談会といって、好きな時間に来て、おしゃべりをして、好きな時間に帰ってもらうといったモデル的なことも試行的に実施している。

【委員】 市長は人口をふやしたいと公言している。都市基盤の整備をまずしたいといった公約もあるが、どうか。

【事務局】 重複するが、市長は人口をもちろんふやしたいが、可住地面積をふやすのではなく、今の市街化区域の中で人をふやしたいと考えている。

【委員】 北広島市の市街化調整区域というのは、全ての土地の何%程度か。要するに今後宅地ができないわけですね。

【事務局】 調整区域に住宅は建てられない。市街化区域に編入しないとイケない。

【委員】 市の権限でも編入できない。将来、まちづくりの中で人をふやしていこうとなった場合、家がないと人口は当然ふえないため、そういった区域をどのように考えているのか。道と相談するということか。

【事務局】 そうだ。「札幌圏都市計画」という北広島と札幌、江別、石狩の4地区でどれだけの人口が必要で、どれだけの流入出があるのかを計算して決めた計画がある。北広島はまだ3割が市街化区域内の未利用地で、それが埋まると約7万人程度となる。来年3月に北海道が市街化区域の見直しをするが、北広島が市街化区域をふやすエリアは輪厚の工業団地のみで、人が住む部分については拡大しないという結論になっている。

【委員】 小泉首相の頃に町村合併が進んだが、例えば北広島が江別と合併し、何年か後に20万都市になれば、様々なことが解決できるのではないか。以前確認した際は考えていないとのことだったが、一つの発展策として、一番身近な考え方ではないかと思うが。

【事務局】 現在国が進めている「定住自立圏構想」は、中核市、中心市をつかって、合併しないにせよ、いろいろなまちの持っている機能を享受し合おうということで、道内では小樽市が手を挙げて後志管内の定住自立圏構想を作成した。北広島は、はっきりとは断言できないが、財政的な基盤も含め自立路線であることを、以前長沼や南幌との話があった際に表明しており、今後も進んでいくものと思っている。

【部会長】 江別はどこかと合併したのか。

【事務局】 江別は、新篠津との話はあったが、途中で終わった。

【部会長】 江別はしなかったが、岩見沢はどうか。

【事務局】 北村、栗沢と合併した。

【部会長】 吸収だ。先ほどの都市計画に戻ると、石狩、江別、北広島というのは、全部札幌に向いている。そう考えると、江別との合併は難しいか。

【事務局】 難しいと思う。

【部会長】 千歳線と函館本線の地域は、文化も違うとの指摘もある。いろいろな意見が出たが、どのようなまとめにするか。

【事務局】 まずは、生き生き生きるプロジェクトについて、「生き生き」という言葉の使い方を含め、もう少し事務局で作業し、まとめたい。また、にぎわい、交流については、もう少し身近な資源が活用できるような部分を抽出したい。この部会で三つも四つも出す必要はないので、例えばこの二つに絞ってまとめて、全体会議に報告するのはどうかと、事務局としては考えている。

【部会長】 それでいいのではないか。

【事務局】 まとめ方についても、すぐ12月16日の全体会議に出すのではなく、一度部会長が確認し、その後各委員に2週間後を目処に送付するのはどうか。ただ、重点プロジェクト自体も次回全体会議での決定は予定していないため、仮に16日に報告したとしても、もう少し詰めることはできないかといった注文があった場合などに、年明けにもう一度専門部会を行い、全体会議ということになるかもしれない。こうなると日数的に厳しいため、可能なら部会長と事務局のやりとりの中で報告し、その後、何かあれば協議といったスタイルを取らせて欲しい。

5. 今後の日程

【委員】 1月と2月の予定は決まっているのか。

【事務局】 1月20日に全体会議を一度予定している。2月も前回配布した資料に記載されているが、決まっている。

【委員】 3月と4月はどうなのか。

【事務局】 スケジュール的には決めている。確認すると、1月20日、2月10日、3月10日、4月7日、4月28日と全て全体会議で予定している。次回、部会から重点プロジェクトに関する報告を行う。

【部会長】 他部会の重点プロジェクトの審議内容について、聞いているか。

【事務局】 前回の会議で重点プロジェクトまで進んでいる部会はない。きょう検討を始めたのが実態だ。きょうは、部分について、キーワードで検討してもらっても構わないと話したが、他部会でもまとめることが難しいため、切り口だけでもいいと考えている。他部会でどういった意見が出たか、終わってみないとわからないが、実は前回この部会が検討した内容、資料等については、他部会にも伝えている。他部会のきょうの結果は、早急にまとめて報告する。

【部会長】 先ほどの原案でいくと、この部会の重点プロジェクトは二つになる。提案としてはこの二つで、その他の意見は、その中に埋め込んで提起することでもいいか。

【事務局】 生き生きという教育・地域的な部分と、にぎわいという交流的な部分という視点から二つ。産業などに関しては、他部会に任せるようなイメージで特色が出せると考えている。

【部会長】 この二つでいいか。生き活きは日々の生活で、にぎわいはお祭りのような感じでイベントなどがあると区分すると、二つあることに意味がある。このような方向でいいか。ただし、他部会の状況を見て、また引き取って再度考える余地も、時間的にはある。

【事務局】 確かにある。12月16日には他部会の意見も出てくるので、もう少し深めようということであれば、12月中は難しいが、例えば1月20日の全体会議が終わった後に部会、あるいは逆に全体会議を1回飛ばすというやり方もある。他部会とも調整する。

【部会長】 では、これで今日の検討を終わりにしたい。重点プロジェクトについては、この部会では二つとし、事務局できょう出た内容を盛り込んで整理して欲しい。

【事務局】 了解した。

【部会長】 次に字句については、前回の修正事項は確認したが、きょうの文章表現などの指摘については、1週間前後で調整し、それを部会報告として出すのか。

【事務局】 質問や単純な語句の整理について全部報告すると、それだけで1時間以上かかってしまう。このため、本当の要旨にかかわる部分だけ報告したいと考えている。このため、コンパクトに伝えられるような形でまとめたい。

【部会長】 資料があるなら、口頭説明は5分くらいで充分だ。では、重点プロジェクトに関する意見がなければ終わりたいがどうか。報告は、前回と同様に部会長ということで、なるべく客観的に話をしたい。次は、しばらくぶりの全体会議となるが、他部会の様子から、この部会がもしずれていたら、1月に修正して、歩調がそろそろような形で審議をしたいと思うが、これでいいのであれば、このまま進めたい。

【事務局】 少なくとも他部会にも事務局が2人入っているが、終わった後の確認ではずれているようなことはない。

【部会長】 了解した。午後8時半までの予定だが、きょうはこういった形で締めくくりた

い。事務局から、他に提起はないか。

【事務局】 特になし

6. 閉 会